

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

9/10

アカデミック英語 No.8

英語で結論を出す —— In conclusion・Therefore・Ultimatelyを使った締め方

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。英語記述の締め方で「So, I think～」という口語的な結論しか書けない答案と、In conclusion・Therefore・Ultimatelyを使ってアカデミックに結論を提示した答案の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 英語論述の結論部分を問う問題

東京大学・慶應義塾大学医学部の英語では、英語で意見を論じる問題が出題される。In conclusion～・Therefore～・Ultimately～という結論の表現を使える受験生は、採点者（大学教員）に「英語でのアカデミックな論述力がある」と評価される。

② 医療・社会問題を英語で論じる問題

「医療AI導入について英語で意見を述べよ」という問いは、医学部推薦入試で出題される。したがって→In conclusion→Ultimatelyの結論の流れを使える受験生は、「So I think～」という口語的締め方との差が明確になる。

③ 英語面接での意見の締め方

英語面接で「結論を述べてください」という場面は定番である。In conclusion～の一文で明快に結論を提示できる受験生は試験官（大学教員）に「英語で論理的に考えられる」と評価される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	英語意見論述・結論部分	In conclusion・Therefore が採点者にアカデミック論述力を示す
東京科学大学・順天堂大学 医学部	英語での意見表明・論述問題	Ultimatelyが論述の締めを格上げする
昭和大学・東邦大学 医学部	英語意見論述・面接の結論	適切な結論表現が採点者（大学教員）に際立つ
医学部・理工系推薦（全般）	英語面接での結論提示場面	In conclusionで即答できる受験生として採点者に印象を残す

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

英語論述の結論を「So I think～」という口語的な表現で書く受験生は、採点者が求める「アカデミックな論述力」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）In conclusion・Therefore・Ultimatelyを使って英語でアカデミックに結論を提示できる、（2）英語論述全体の構造（導入→本論→結論）を一本化できる、（3）英語面接で明快な結論を一文で提示できる、という変化が起きる。

何十年も英語の答案を採点してきた清光学院の講師陣は、英語論述の結論部分で「口語的な締め方の答案」と「In conclusionを使ったアカデミックな答案」の評価の差を採点者として知っている。